

令和2年度 近畿大学泉州高等学校 学校評価

1 めざす学校像

本校の校訓である「誠実」「礼節」「友愛」の精神を育むとともに、近畿大学の教育の目的である、人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成することをめざす。

- * 育てたい生徒像：他人を思いやれる心を有し、社会に有為な人材と認められる生徒
- * 目標とする学校像：自主・自立の精神のもと教員、生徒がともに人間的に成長する場

このような観点から、あらゆる教育活動を通して主体的に学ぶ学校環境を作る。

2 中期的目標および実施項目

A 確かな学力の育成

近畿大学特別推薦入試制度の理念（リーダー養成、自校理解教育、確かな学力）を踏まえ、以下の項目について改善する。

- ア 英語検定、漢字検定、数学検定、GTEC、TOEICなどの検定合格率および得点増を目的とする補習授業を導入し、学年ごとの一斉受験機会を設定する。上記項目に関しては、自己評価にて結果を分析し、次年度への目標設定とする。
- イ 基礎学力アップの補習、国公立大学入試対策補習の導入により、生徒の実態に応じて学力を伸ばす態勢を作る。
- ウ 理系クラスを少人数クラス展開とし、学力の向上をはかる。物理、生物、数学において能力別少人数クラスの設定を行う。
- エ 図書館活動を活性化し、読書量の増加を目指す。
- オ 放課後サテライト授業の受講希望者増加にともない、サテライト教室・自習室の整備・拡張を行い、学年ごとに受講・自習できる環境整備を行う。
- カ 大学広報担当者による講演会、外部講師（英語、国語）による大学入試対策講座を実施する。
- キ 大学入試および学力アップのための教員対象研修会を実施する。
- ク 英語科教員の英語力伸長のため、セブ島での語学研修を教員も受講する。

B 進路希望の実現

- ア 近畿大学および国公立大学志願者を増加させる。
- イ 薬学部、歯学部、看護学部など医療系学部の受験に対応した選択授業科目を設定し、細やかな指導を行って合格へつなげる。
- ウ 私立大学文系学部志望者へも数学、理科の教科指導を行い、基礎学力を高める。
- エ 大学オープンキャンパスへの参加、病院見学の機会等を増やし、志望動機を高める。

C リーダーシップ、人間力を高める取り組み

- ア 生徒会活動、クラブ活動を生徒主体に運営させていく。
- イ 体育祭、文化祭、入学式、卒業式などを生徒会主体の運営へ移行していく。
- ウ いじめアンケートなど生徒の意識に関するアンケートを実施することにより、クラス内弱者をなくす意識を涵養する。各学期に1度、年間3回のアンケート調査を実施する。
- エ AED講習を高校2年生全員に受講させる。薬物乱用に関する講演会を全校生徒に行う。性に関する講演会を高校1年生、3年生対象に実施し、生命、生活に対して確かな知識と意識を涵養する。

D グローバル化への対応

- ア 希望者対象に、1年間留学、3ヶ月留学、2週間語学研修をアメリカ・オレゴン州にて実施している。参加者は各学年の10%強であるが、年々増加傾向にあり、今後、さらに参加者が増加するように研修時期、研修後に欠席した通常授業の補完を考慮する。
- イ 全生徒対象に、ハワイ修学旅行においてハワイ大学の英語講習を受講している。1学年研修において外国人留学生との国際交流を実施している。
- ウ アの参加者および希望者に対して、近畿大学英語村特別プログラム受講を実施している。
- エ ポートランド語学研修とは別にフィリピン・セブ島でのマンツーマン英会話研修(2週間)を平成30年度より実施している。この研修は、英語科教員の語学力向上研修を兼ねており、英語科教員が毎年2名程度受講している。

E 地域・保護者との連携、社会貢献について

- ア 地域への貢献活動として、芸術鑑賞会（桂ざこば師匠一門の落語会）を本校にて行い、午後の部を近隣住民の方に無料で鑑賞していただいている。
- イ 文化祭を近隣住民へ開放し、バザーでの収益を被災地義捐金としている。
- ウ 近隣の清掃活動（牛滝川）に参加している。
- エ 山滝地区の祭礼（だんじり祭り）およびマラソン大会に参加している。
- オ 近隣青年団ソフトボール大会に本校グラウンドを貸与している。
- カ 駅前啓発活動（ストップ飲酒運転、交通安全など）などの岸和田警察署の活動や税務署の活動への協力を行っている。
- ク 保護者会向け講演会（令和元年度；「ネット社会と高校生の実態」）、授業参観を実施している。
- ケ 保護者、生徒向け一斉メールはほぼ全保護者・生徒が加入したため、緊急時（災害など）の連絡が確実に取ることができた。また、一斉メール配信を学年ごとに設定変更したため、保護者が必要な連絡内容を十分に把握できるようになった。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和3年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○保護者アンケート</p> <p>【32項目中「(よく)あてはまるの割合が80%以上の項目(数値の高い順)】</p> <p>①生徒は、全体として校則をよく守っていると思う。95.3%</p> <p>②学校では、生徒の個人情報がよく守られている。94.9%</p> <p>③学校の特色は、進路目標の実現である。93.9%</p> <p>④学校は、基本的な社会ルールを守る態度を育てようとしている。92.6%</p> <p>⑤学校の施設・設備は、丁寧に使われている。92.1%</p> <p>⑥学習評価(定期考査、提出物等)は、適切である。91.3%</p> <p>⑦先生は、問題が起こればすぐに対応してくれる。89.7%</p> <p>⑧学校は、校内での事故防止に施設設備面で配慮している。87.4%</p> <p>⑨学校の教育方針が保護者に適切に伝えられている。84.8%</p> <p>⑩保護者として、この学校に通わせて満足している。83.9%</p> <p>⑪学校は、生徒の進路に関する情報を適切に提供している。82.8%</p> <p>⑫学校は、生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。82.6%</p> <p>【32項目中「(よく)あてはまるの割合が70%未満の項目(数値の低い順)】</p> <p>①授業参観や研究授業などが適切に設けられている。42.7%</p> <p>②さまざまな学校行事があり、活発である。49.9%</p> <p>③学校は、保護者や地域の人たちと話す機会を多く持っている。54.6%</p> <p>④地震・火災に備え、生徒に避難マニュアルが周知されている。61.0%</p> <p>⑤子どもは、学校の雰囲気がよく、毎日が楽しいと言っている。66.1%</p> <p>⑥子どもは、授業はわかりやすく、丁寧に教えてくれると言っている。67.2%</p> <p>⑦子どもは、学校から保護者宛に出された文書を必ず渡している。69.1%</p> <p>【新型コロナウイルス対策に関する項目】</p> <p>①校内や学校行事等での感染対策(除菌、マスク着用、三密回避)は適切である。83.4%</p> <p>②オンライン教育(class roomでの連絡、授業配信、eラーニング英語学習、モバイルサテライト教室など)に関する対応は適切である。71.5%</p> <p>③子どもは、学校が提供するオンライン教育を活用し、力をつけている。48.7%</p> <p>[分析]</p> <p>進路目標の実現という学校の特色への理解やそのための取り組み、さらには規範意識を育てる生徒指導への理解もそれなりに得られていると言える。施設・設備面でも決して新しいものばかりではないが、使用や安全面での配慮については、一定の評価を得ている。学校行事に関する評価が低いのはコロナ禍の影響でやむを得ない面があるが、授業に関する評価がやや低下していることは注視が必要である。また、令和2年度に初めて実施した新型コロナウイルス対策に関する質問では、感染対策やオンライン教育の実施に対する評価は高いが、それが学力の向上につながっていると考える保護者は少なく、改善の必要がある。</p> <p>○教職員アンケート</p> <p>①学校の教育方針・目標を教職員、学校関係者が理解している。86.0%</p> <p>②教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて、教育活動が行われている。76.6%</p> <p>③高大連携協定を結んだ大学と連携体制が整い、指導が行われている。88.2%</p> <p>④生徒は、全体として校則をよく守っていると思う。94.1%</p> <p>⑤いじめが生じた際に学校全体で組織的に対処する体制がある。90.0%</p> <p>⑥職員会議をはじめ、各種会議が、有効かつ効果的に機能している。70.2%</p> <p>⑦子どもは、学校行事に積極的に参加している。92.2%</p> <p>⑧生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。54.9%</p> <p>⑨事故・事件・災害時に対処する役割分担が明確にされている。86.0%</p> <p>⑩積極的に募集活動が行われ、定員を充足する努力がされている。76.5%</p> <p>⑪理事会等における学園の運営に関する必要事項は報告されている。63.8%</p> <p>[分析]</p> <p>募集活動については、令和元年度、2年度と入学者数が安定していたが、令和3年度入試では定員を充足できなかったことから、この状況の改善に努力をしていきたい。生徒会活動については、コロナ禍で活動の縮小を余儀なくされたことから、昨年度改善が見られたにもかかわらず再度低下した。学園運営に関する必要事項の報告は、運営委員会での報告、学年会議での情報共有、書面の掲示などを行っているが、充分とは言えない結果である。</p>	<p>○生徒・保護者</p> <p>1. 生徒間のトラブルを深刻なものとしなないように、今後とも生徒間の些細な動きから変化を把握できるよう、注意深く指導していく必要がある。</p> <p>2. 生徒会ボランティアスタッフの活動が活発化し、一定人数(約40名)が活動している点は評価できる。</p> <p>3. クラブ活動が近年徐々に活性化しており、文化部への加入者増が顕著である。PTAからも文化部支援特別予算(年間10万円程度)を予算化し、生徒数、クラブ数の増加にともない、増額を行う。</p> <p>4. 保護者の意識傾向として、子どもが大学進学のために学習することを期待する傾向が大きくなっているほか、留学等についての関心も高まっている。そのような中で進路保障やコロナ禍での中断はあるもののグローバル化への対応プログラムが充実してきていることは評価できる。</p> <p>5. 令和2年度は、授業参観や体育祭、文化祭等は中止となったが、保護者対象の研修会等の学校行事に保護者が積極的に参加していることは評価できる。</p> <p>6. 年2回の保護者、生徒、クラス担任による三者懇談会など、保護者の意見を聞くことが出来る機会は用意されているが、進路説明会などにおいても内容をさらに充実させるとともに、保護者からの意見を聞ける機会を積極的に設けるべきである。</p> <p>○教職員</p> <p>1. 労働管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日学校閉鎖を実施している。 ・校務運営委員17名による当番制の施設によって平日19時、土曜日17時の完全施設が行われている。 ・火曜、木曜、土曜の放課後補習は学年ごとに実施教科、担当教員を決めて行っており、補習手当が支払われている。 ・強化クラブである野球部や男子バレー部の指導者については平日1日を休業日として出勤および授業なしとし、日曜日の練習や試合での勤務と振り替えている。 <p>以上のことは評価できる。</p> <p>2. 教職員研修</p> <p>近畿大学入学センター職員による研修、大学教員によるカウンセリング研修、「予備校講師による校内授業」の参観、また、採用2年未満の教員への研修部による各種研修など、教職員向け研修会が年々多く開催されていることは評価できる。ただ、研修内容を教職員が消化しきれずに業務過多に陥ることがないように、研修会を年間計画に基づいて定期的かつ効率的に実施すべきである。</p> <p>3. 財務状況および校舎改修工事など</p> <p>令和3年度入学生数の定員確保ができなかったことで直ちに財務状況が悪化するわけではないが、安定した財務状況を維持するためには、安全面等に配慮した改修工事を優先的に行っていく必要がある、そのことへの教職員の理解を求める努力を行うべきである。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 英語検定、漢字検定、数学検定、GTEC、TOEICなどの検定合格率および得点増を目的とする補習授業の導入および学年ごとの一斉受験機会を設定する。</p>	<p>(1) 各種検定の実施計画・内容 3 検定の実施時期 (学年統一実施) * 統一実施回以外は希望者受験</p> <p>①英語検定 高校1年次9月 高校1年次2月 高校2年次1月</p> <p>②漢字検定 高校1年次6月 高校2年次10月</p> <p>③数学検定 高校1年次2月 高校2年次2月</p> <p>(2) 基礎学力定着度の指標として総合評価を行う。 (英語検定、漢字検定、数学検定の取得級を得点化し合計する。)</p>	<p>(1) 平成31(令和元)年度入学生の高校2年終了時点での取得級と割合 (令和2年度末集計、在籍者数273名) ()内は令和元年度→令和2年度の合格割合の変化を示す。</p> <p>①英語検定 目標 2級取得35% 準1級 1名(0名→1名) 2級 33名(5.3%→12.1%) 準2級 103名(31.4%→37.7%) 3級 116名(51.3%→37.0%)</p> <p>②漢字検定 目標 準2級以上50% 2級 14名(2.2%→5.1%) 準2級 86名(33.6%→31.5%) 3級 122名(52.7%→44.7%)</p> <p>③数学検定 目標 準2級以上50% 準1級 0名(0%→0%) 2級 22名(5.3%→8.1%) 準2級 124名(23.9%→45.4%)</p> <p>(2) 平成29年度より2年終了時点での漢字検定、英語検定、数学検定の級毎の合格率および、3 検定の総合評価を分析し、対策を実施している。総合評価については、各検定合格級を以下のように得点化している。 英語検定 2級;6点 準2級;4点 3級;1点 漢字検定 2級;6点 準2級;4点 3級;1点 数学検定 準1級;8点 2級;5点 準2級;2点</p> <p>総合評価(得点合計) 目標;総合得点6点以上の割合45% 結果;135名(36.7%→49.5%) 12点以上 24名(7.5%→8.8%) 9点~11点 45名(12.4%→16.5%) 6点~8点 66名(16.8%→24.2%) 3点~5点 74名(30.1%→27.1%) 0点~2点 64名(33.2%→23.4%)</p>	<p>(1) ①英語検定について (今後も努力継続が必要) 高校2年終了時までの英語検定2級合格率は12%程度で、前年度よりも上昇した。しかし、目標とする35%にはまだ開きがあることから、今後も努力継続が必要である。令和2年度は、コロナ禍ということもあり、オンライン教材であるEnglish Discoveryを導入したことが一定の効果を上げたと思われる。今後は英検一次試験対策の放課後補習、2次試験対策の個別指導の一層の充実をはかるだけでなく、1次試験での不合格者にリスニングでの低得点者が多いことから、授業その他の機会においてリスニング指導の機会を増やす必要がある。また、学年統一受験日以外の受験日でも積極的に受験するように指導し、受験機会を増やすことも必要である。</p> <p>②漢字検定について (今後も努力継続が必要) 準2級や3級の不合格者に対する居残り補習などを実施した結果、2級・準2級については、合格者の割合が上昇した。さらに合格率を上昇させるためには、部首や対義語・類義語など、単に書き取りや読みにとどまらない対策を年間計画に基づいて実施する必要がある。</p> <p>③数学検定について (今後も努力継続が必要) まだまだ目標到達には及ばないが、2級・準2級、とくに準2級については合格率が大きく上昇している。授業の解説の中で数学検定の出題傾向に触れたり、検定の問題を朝の学習や掲示物等で扱う機会を増やすなどの対策が効果を上げた可能性がある。また、令和2年度の2学年は理系を選択した生徒の割合が高いことも大きな要因である。今後も理系選択者を増やすように努めたい。準1級については試験範囲が数学Ⅲ中心であるため高校2年終了時で受験させることは難しいが、2級、準2級については、さらなる合格率向上を目指すべきである。</p> <p>(2) 総合評価の結果は、全体的に前年度より大幅に上昇し、目標である総合得点6点以上の生徒割合45%という目標を達成した。今後も各検定の自己評価を踏まえてそれぞれの合格率を上げるとともに、生徒各個人の総合得点を常に把握させ、対策へのモチベーションにするとともに、統一受験日以外の受験を勧める際の材料としていく必要がある。</p>
2 リーダーシップ、人間力を高める取り組み	<p>(1) 生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の活性化</p> <p>(2) 地域との関わりおよび貢献活動を積極的に行う</p>	<p>(1) ①入学式、卒業式、体育祭、文化祭、外国人留学生の歓送迎行事、オープンスクールなど各種行事における運営 ②芸術鑑賞会での老人誘導、車いす搬入など ③文化祭でバザーを実施し、収益を被災地義援金とする活動 ④歳末募金活動</p> <p>(2) ①芸術鑑賞会(桂ざこば師匠一門の落語会、本校で実施)への近隣住民の方の無料招待 ②文化祭の近隣住民の方への開放 ③老人介護施設慰問 ④近隣(牛滝川)の清掃活動への参加 ⑤山滝地区の祭礼(だんじり祭り)への参加 ⑥山滝地区マラソン大会への参加 ⑦岸和田警察署・税務署との活動に参加</p>	<p>(1) 目標;活動人数、活動数の増加</p> <p>〔結果〕 新型コロナウイルスの影響で、左記のうち、体育祭、文化祭、外国人留学生の来日、芸術鑑賞会などが実施できず、入学式、オープンスクールなども生徒スタッフの活動機会を設けることができなかった。歳末募金活動については実施することができた。</p> <p>(2) 〔結果〕 ①~⑥については、コロナ禍で行事そのものを実施できておらず、近隣の方々との交流の機会をほとんど持つことができなかった。状況が許すようになれば、これらの行事における交流を再開したい。 ⑦の「税の作文」については2学年で実施し、応募した。</p>	<p>(1) 令和元年度より校務分掌として生徒会部を新設し、各種行事における生徒会および生徒スタッフの活動を企画・立案を含めた主体的なものに転換している。令和2年度については、十分な活動ができなかったが、感染症の収束状況を見極めつつ、今後もその方針のもとで学校行事を運営していきたい。また、それらの活動を、生徒会担当教員だけでなく、学校全体で支援する体制を整えていく必要がある。</p> <p>(2) 地域、地元税務署および警察署との協力関係は良好であり、各行事が実施可能な段階となれば、今後も引き続き協力関係を築いていくべきである。近隣は少子化、高齢化が進み老人が住民の大半を占めるようになり、地元の「だんじり祭り」にはだんじりの曳手が少なく本校生徒のボランティア参加なくしては成り立たない状況である。近隣自治会、青年団より本校活動には感謝と今後の協力要請があることから、引き続き近隣地域への貢献活動を行い、今後の高齢化社会での貢献を生徒が学習する機会とするべきである。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
3 中長期的計画及び目標	(1) グローバル化への対応と取組 (2) 健全な経営状況の維持	(1) ア 長期留学 イ 2週間語学研修 ウ セブ島英語集中研修 エ ハワイ修学旅行 (2) ア 生徒募集における定員確保 イ 耐震工事計画	(1) 目標；海外研修行事への参加者数を増加させる。 〔結果〕 左記ア～エについては、コロナ禍で実施できなかったが、セブ島と結んでのオンライン英会話レッスンを希望者対象に実施した。 (2) ア 目標；経営の健全化 令和元年度在籍数；755名 令和2年度在籍者数；765名 10名増加（昨年度増加数139名） イ 平成30年度耐震工事实施	(1) ア～ウ 令和2年度は実施できなかったものの、状況が許すようになれば、長期留学や語学研修のニーズは再び増加に転じられると思われる。また、新型コロナウイルスの影響は令和3年度も継続する見込みであることから、海外での研修は無理でも、国内での語学研修等の実施を検討すべきである。 エ ハワイ修学旅行については、生徒数増加とともに宿泊先、利用航空機便の変更を余儀なくされ、為替相場変動によるコスト高に対して、対費用効果の高い研修内容を検討すべきである。 (2) ア 令和2年度入試に向けてのオープンスクールや説明会は参加者が多く、また、本校生徒（生徒会ボランティアスタッフ、クラブ員）による案内や説明が好評で、令和2年度入試では、前年度よりは減少したものの、募集定員の240名を超える250名の新入生を迎えることができた。しかし、令和3年度入試では、コロナ禍で入試広報イベントの規模の縮小や回数の減少を余儀なくされ、入学予定者は144名にとどまった。コロナ禍といった要因は他校も同様であるので、生徒募集活動等の改善点を検討した上で、今後一層の努力が求められる。 イ 耐震工事については、基金積立計画に基づき平成30年度に実施しており、令和元年度は内装や机・椅子等の新規購入など各種の教室整備を実施した。

本年度の取組内容及び自己評価（上記）への学校協議会からの意見

<p>1 確かな学力の育成について</p> <p>ア 英語検定合格率を伸ばすことに尽力すべきである。高校2年末での英語検定2級合格率が上昇したものの、まだ12%程度であることから、今後も目標を下げることなく、20%～30%へ伸ばし、最終的には35%を超えるよう平常授業およびそれとは別の対策の両面で改善をはかる必要がある。また、漢字検定、数学検定等の得点率を上げることも重要である。</p> <p>イ 近畿大学および国公立大学志願者を増加させるよう学力を高める方策を取っていることは評価できる。特に、放課後補習の充実、予備校映像授業が受講できるよう教室整備を行ったこと、学習合宿に予備校講師・大学教員を招聘して授業を行ったことは評価できる。 本校としては難関国立大学（東京大学など）を目指すのではなく、より多くの生徒を近畿大学のほか、大阪市立大、府立大、教育大など地元国公立大へ進学させることを主眼とした態勢を構築することが重要である。 近畿大学進学者へのケアとして激励会、進学後の状況調査および指導を実施している。これは、留年者や中途退学者減少に効果があり、今後も継続して行うべきである。</p> <p>2 リーダーシップ、人間力を高める取り組みについて</p> <p>ア 生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の幅が広がっていることは評価できる。今後、各種行事の運営を生徒会に委ね、教員指導のもと生徒の主体性や創造力、表現力を伸ばしていくべきである。</p> <p>イ 生徒数765名の小規模校としては地域への貢献活動が多岐にわたっており、近隣住民の評判が良い。今後も継続して活動するとともに、近隣住民の高齢化が進んでいることから、高齢者が満足できる活動を模索することが必要である。</p> <p>ウ リーダー養成については高校段階で行う内容と大学が行う内容と区別が無く、現時点では、グローバルリーダー養成などを高校が行うものと認識されているが、高校で出来ること、本来大学で行われるべきことの差異を考察し、今後も慎重に対応すべきである。</p> <p>エ 人間力の涵養については、本校生徒には入学後短期間で礼儀、挨拶の習慣が定着している点が評価できる。今後も日常の教育活動を通して、自主・自立の精神、人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成するための活動内容を精査すべきである。</p> <p>3 中長期的計画及び目標について</p> <p>ア グローバル化への対応については、ハワイでの修学旅行以外に、長短4種類の海外留学（語学研修）プログラムが用意されていることは評価できる。感染症の流行が収まったのちは、留学、研修を再開し、成果の検証にも重点を置きながら内容をさらに充実させることと、欠席期間の授業内容についての補完にも配慮すべきである。</p> <p>イ 令和元年度、2年度の入学者数は安定していたが令和3年度の入学者数が減少した。これによって直ちに経営が不安定となるわけではないが、この傾向が続くことのないように、教育活動、生徒募集活動の充実を図るべきである。施設整備については、生徒の安全・安心にかかわる部分を最優先で改善していきながら、全体については中長期的視野に立ってしっかりと計画的に行うべきである。</p> <p>4 その他</p> <p>ア 自己評価アンケートでの「要改善」項目をなくすよう努力すべきである。保護者への連絡や教員間の情報共有をより密にすることが重要であると思われる。</p> <p>イ ホームページについては、すべての行事について最新の内容がアップされており、学校内の様子が良くわかる点は評価できる。</p> <p>学校協議会学外委員 弁護士1名、大学教授1名、PTA会長1名、教育後援会会長1名、地域連合自治会長1名、学園理事・評議員1名 学校協議会学内委員 学園専務理事、校長、副校長、事務長、教務部長</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--